

2016年12月

Jリーグの経営がうまくいかないのはなぜか ～欧州プレミアリーグとの比較～

情報学部 経営情報学科 新井ゼミ
B3P21097 鶴田 遼平

【卒業論文概要】

近年、高い注目を集めているのがサッカー日本代表だ。ドルトムントの香川真司選手やレスターの岡崎慎司選手など海外のビッグクラブで活躍する選手も目立つようになった。ワールドカップでの奮闘も人々の記憶に新しいだろう。しかし、こうした日本代表の人気とは裏腹に苦戦を強いられているのが1993年に発足した国内Jリーグである。

現在Jリーグは、J1クラブ18、J2クラブ22の計40クラブで構成されているが、過半数のチームが経営難に陥っている。多くのクラブが広告料収入に収益構造が偏っている。広告料比率が高いところでは7割の収入を広告料に依存しているところもある。また、Jリーグの現在の年次計画の作成方法は、基本的に必要な支出を軸に作成されている。そのため、収入見込み以上の支出をしてしまい、赤字になってしまうのである。チームを強くするためには選手の移籍や獲得も必要であるが、現状使えるお金の範疇で選手を強化しクラブを強くしていくことを考えるべきではないだろうか。そこで、財政面に関する提案である。赤字経営をしないために、まず赤字を出さないことを義務化することが望ましい。Jリーグ協会が率先し、赤字を出し続けているクラブはリーグから撤退させるのである。これにより、健全な経営が維持されるのではないだろうか。

最後に、Jスーパーリーグというものを提案する。現在はJ1、J2、J3というリーグ構成であるが、J3はほとんど人々の認知を得られていない状況である。Jリーグの理念である地域貢献を達成するために各地域にクラブを創設したが、人々はクラブ数や選手が多すぎてそれらを覚えることにストレスを感じている。人々がJリーグの試合観戦をしない理由の一番大きな項目として挙げられているのが、この選手やクラブが多すぎることなのである。そのため下のリーグを創設するのではなく、あえて上にリーグを創設することでリーグ全体の格式を高めるのである。今後のJリーグの発展のためにもこうしたシステムの変化は大きな契機となるのではないだろうか。